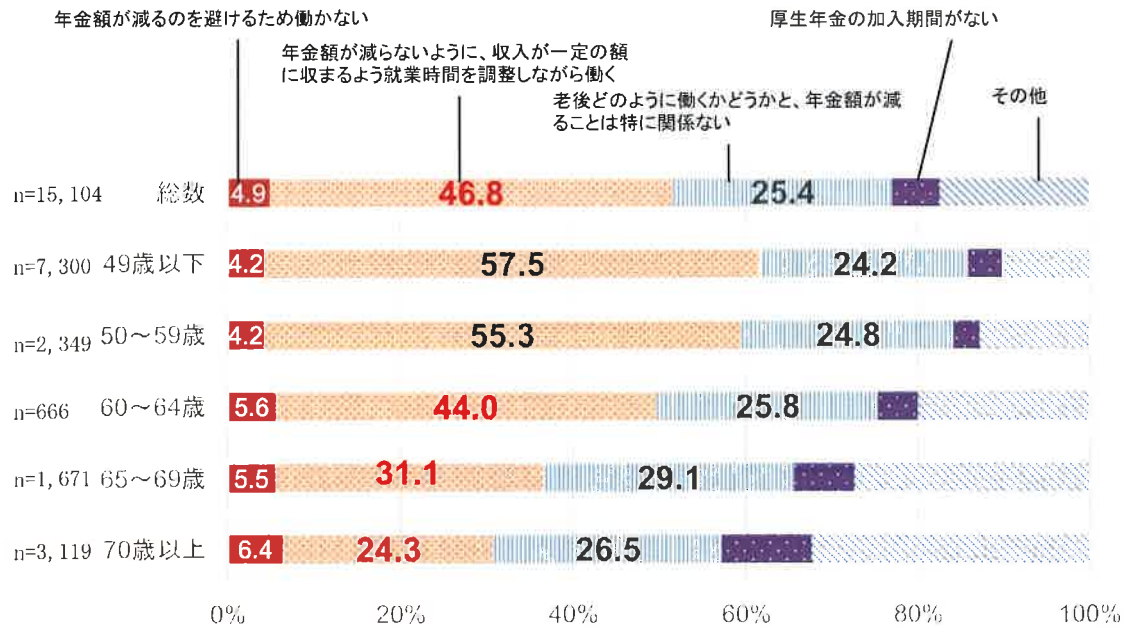


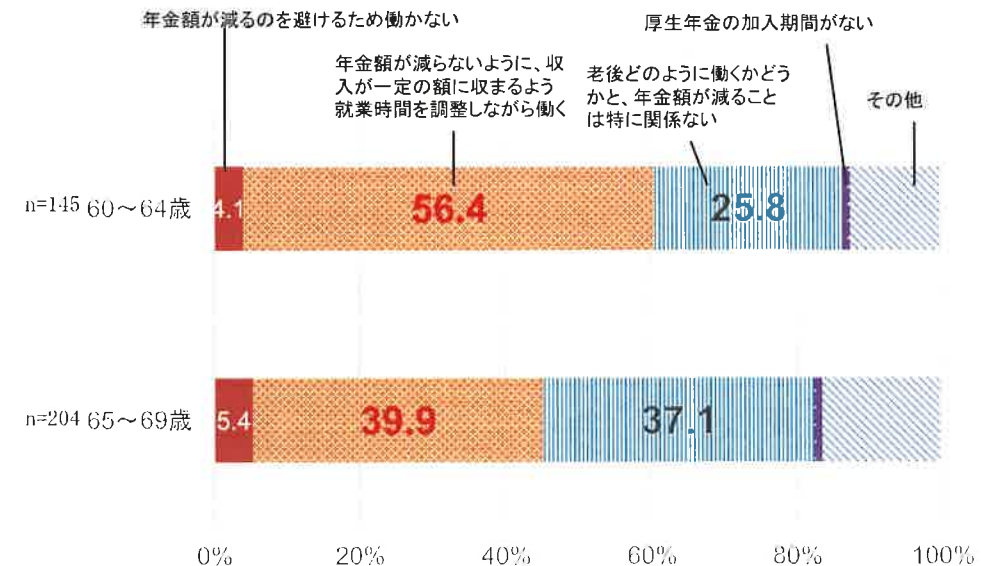
## 在職老齢年金制度と就労についての意識(年金制度に関する総合調査)

- 厚生年金を受け取る年齢になった時、どのように働きたいと思うかについての回答を、年齢階級別で見ると、**年齢が高くなるほど「年金額が減らないように、収入が一定の額に収まるよう就業時間を調整しながら働く」の割合が低くなる傾向**がみられる。
- 60歳台の第2号被保険者のみを見ると、「年金額が減らないように、収入が一定の額に収まるよう就業時間を調整しながら働く」と回答した者は、60～64歳の割合の方が大きいものの、**65～69歳でも約4割**を占める。
- 一方で、「老後どのように働くかどうかと、年金額が減ることは特に関係ない」と回答した者は60～64歳では約3割、65～69歳では約4割を占める。

年齢階級別 在職老齢年金制度と就労についての意識



60歳台の第2号被保険者  
在職老齢年金制度と就労についての意識



(資料) 厚生労働省年金局「年金制度に関する総合調査」(2019年)

※「年金制度に関する総合調査」(2019年)の概要

- 調査の目的：本調査は、年金受給者および被保険者の就業状況や収入などの生活実態と、年金制度に関する意識を総合的に把握することにより、制度改正のための基礎資料を得ることを目的とする。
- 調査対象者及び調査客体：平成30年12月定期支払いの支払額情報にある国民年金および厚生年金の老齢年金受給者、平成30年11月20日時点における国民年金および厚生年金の被保険者を調査の対象とし、調査対象から無作為に抽出した26,600人を調査の客体としている。
- 調査時点及び調査期間：調査時点：平成31年2月28日、調査期間：平成31年3月1日～29日
- 調査方法：調査客体として選ばれた老齢年金受給者および被保険者に調査票を郵送で送付し、郵送で回収した。
- 有効回答率：59.8%